一．傍線部「る」の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形　イ．完了・存続の助動詞「り」の連体形　ウ．動詞の連体形活用語尾の一部〉
1　ほととぎすや聞きたまへる。　（徒然草）　〔　　〕
2　かれが妻なるべしと知らる。　（奥の細道）　〔　　〕

二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形　イ．打消の助動詞「ず」の連体形　ウ．ナ変動詞の終止形活用語尾〉
1　戌の時も過ぎぬべし。　（落窪物語）　〔　　〕
2　いくさには勝ちぬ、とおぼゆるぞ。　（平家物語）　〔　　〕

三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．打消の助動詞「ず」の已然形　イ．完了の助動詞「ぬ」の命令形　ウ．願望の終助詞（奈良時代）　エ．動詞の活用語尾〉
1　夕されば小倉の山に鳴く鹿は今宵は鳴かず寝ねにけらしも　（万葉集）　〔　　〕
2　ありつつも見し給はむぞ大殿のこの廻の雪な踏みそね　（万葉集）　〔　　〕

四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．現在推量の助動詞「らむ」　イ．完了の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　ウ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量の助動詞「む」　オ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉
1　このわたりの、心知れらむ者を召して、問へ。　（源氏物語）　〔　　〕
2　つゆ違はざらむと、　（徒然草）　〔　　〕

五．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．四段動詞「なる」の連用形　イ．断定の助動詞「なり」　ウ．伝聞・推定の助動詞「なり」　エ．形容動詞の活用語尾〉
1　畳をそよそよと踏みて来なり。　（十訓抄）　〔　　〕
2　世には、心得ぬことの多きなり。　（徒然草）　〔　　〕

六．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．助詞　イ．副詞の一部　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾〉
1　東西に急ぎ、南北に走る。　（徒然草）　〔　　〕
2　夜はすでにほのぼのと明けゆけど、　（平家物語）　〔　　〕

七．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．断定の助動詞　イ．完了・存続の助動詞　ウ．形容動詞の活用語尾〉
1　雪のおもしろう降りたりし朝、　（徒然草）　［　　］
2　女の兄人（せうと）、にはかに迎へに来（き）たり。　（伊勢物語）　［　　］

八．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．強意の係助詞「なむ」　イ．願望の終助詞「なむ」　ウ．強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．ナ変動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」〉
1　その人、容貌よりは心なんまさりたりける。　（伊勢物語）　［　　］
2　人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとにうちも寝ななむ　（伊勢物語）　［　　］

九．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．希望の終助詞「ばや」　イ．接続助詞「ば」（仮定条件）＋係助詞「や」　ウ．接続助詞「ば」（確定条件）＋係助詞「や」〉
1　別れてはほどをへだつと思へばやかつ見ながらにかねて恋しき　（古今集）　［　　］
2　着てにほはばや人のしるべき　（万葉集）　［　　］

十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。
〈ア．格助詞　イ．接続助詞〉
1　この夜中過ぐるまでは、この蛇、柱のもとに侍りつるが、明けて見侍りつれば、蛇も見え侍らざりしなり。　（宇治拾遺物語）　［　　］
2　長門（ながと）の前司（ぜんじ）といひける人の女（むすめ）二人ありけるが、姉は人の妻（め）にてありける。　（宇治拾遺物語）　［　　］

十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～カから選べ。
〈ア．過去の助動詞「けり」の已然形　イ．形容詞の已然形活用語尾　ウ．推量の助動詞「べし」の已然形の一部　エ．打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部　オ．希望の助動詞「まほし」の已然形の一部　カ．四段動詞の已然形活用語尾＋完了の助動詞「り」の已然形（命令形）〉
1　また、かねて思ひつるままの顔したる人こそなけれ。　（徒然草）　［　　］
2　見に行かまほしけれど、さらに道も覚えず。　（宇治拾遺物語）　［　　］

十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．サ変動詞「す」の連用形　イ．過去の助動詞「き」の連体形　ウ．強意の副助詞「し」　エ．強意の終助詞「かし」の一部〉
1　目（ま）のあたり珍かなりしことなり。　（方丈記）　［　　］

2　書きけがしたりなどしたるあり。　（枕草子）　〔　　〕

十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．副詞「しか」　イ．過去の助動詞「き」の已然形　ウ．過去の助動詞「き」の連体形＋疑問の係助詞「か」　エ．強意の副助詞「し」＋疑問の係助詞「か」　オ．希望の終助詞「てしか」の一部〉
1　何しか来けむ君もあらなくに　（万葉集）　〔　　〕
2　中納言、法師になり給ひにしこそあはれなりしか。　（枕草子）　〔　　〕

十四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．格助詞「して」　イ．接続助詞「して」　ウ．サ変動詞の連用形（活用語尾）＋接続助詞「て」〉
1　ただ仮の庵のみ、のどけくして恐れなし。　（方丈記）　〔　　〕
2　格子どもも、人はなくしてあきぬ。　（竹取物語）　〔　　〕

十五．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．サ変動詞「す」の未然形　イ．過去の助動詞「き」の未然形　ウ．使役（尊敬）の助動詞「す」の連用形〉
1　「なんぢが巻かせて持たせたる旗あげさせよ。」　（平家物語）　〔　　〕
2　旅にしてもの恋しきに鶴（たづ）が音も聞こえざりせば恋ひて死なまし　（万葉集）　〔　　〕

十六．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。
〈ア．完了（強意）の助動詞「つ」　イ．接続助詞「て」〉
1　うたたねに恋しき人を見てしより夢てふものは頼みそめてき　（古今集）　〔　　〕
2　翁（おきな）の申さむことは聞き給ひてむや。　（竹取物語）　〔　　〕

十七．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．格助詞「と」　イ．接続助詞「と」　ウ．断定の助動詞「たり」の連用形　エ．形容動詞の連用形活用語尾　オ．副詞の一部〉
1　佳景寂寞（じゃくまく）として、心すみゆくのみおぼゆ。　（奥の細道）　〔　　〕
2　一銭軽（かろ）しといへども、これを重ぬれば、貧しき人を富める人となす。　（徒然草）　〔　　〕

十八．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。
〈ア．禁止の副詞「な」　イ．禁止の終助詞「な」　ウ．詠嘆の終助詞「な」　エ．奈良時代の意志の終助詞

「な」　オ．完了（強意）の助動詞「ぬ」の未然形　カ．打消の助動詞「ず」の未然形　キ．希望の終助詞「てしがな」の一部〉

1　あやまちすな。心しておりよ。　（徒然草）　〔　　〕

2　まめまめしきものは、まさなかりなむ。　（更級日記）　〔　　〕

十九．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。

〈ア．格助詞「に」　イ．接続助詞「に」　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾　カ．ナ変動詞の連用形活用語尾　キ．副詞の一部〉

1　何事にかあらん、ことごとしくののしりて、　（徒然草）　〔　　〕

2　十月つごもりなるに、紅葉散らで盛りなり。　（更級日記）　〔　　〕

二十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．格助詞「にて」　イ．断定の助動詞「なり」の連用形＋接続助詞「て」　ウ．形容動詞の連用形活用語尾＋接続助詞「て」〉

1　御髪こまかに、いみじう美しげにて、　（栄花物語）　〔　　〕

2　潮海（しほうみ）のほとりにてあざれあへり。　（土佐日記）　〔　　〕

二十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．接続助詞「ば」（仮定条件）　イ．接続助詞「ば」（確定条件）　ウ．係助詞「ば」〉

1　頼義も、取り返したる馬をば、郎等にうち預けて寝にけり。　（今昔物語集）　〔　　〕

2　月花をばさのみ目にて見るものかは。　（徒然草）　〔　　〕

二十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。

〈ア．推量の助動詞「らむ」　イ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　ウ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」　エ．完了（存続）の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　オ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉

1　かく辛（つら）き目にあひたらむ人、ねたく口をしと思はざらむや。　（徒然草）　〔　　〕

2　まして、数ならざらんにも、子といふものなくてありなん。　（徒然草）　〔　　〕

二十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．格助詞「を」　イ．接続助詞「を」　ウ．間投助詞「を」〉

1　翁（おきな）の命、今日明日とも知らぬを、かくのたまふ君達（きんだち）にも、よく思ひ定めて仕うまつれ。　（竹取物語）　〔　　〕

2　立ちとまり見てを渡らむ　（古今集）　〔　　〕

２１十.　２１九.　２１八.　２１七.　２１六.　２１五.　２１四.　２１三.　２１二.　２１一.

イイ　イウ　イア　イイ　イア　イウ　エイ　ウエ　アア　アイ

十一.
２　１
オ　イ

十二.
２　１
ア　イ

十三.
２　１
イ　エ

十四.
２　１
イ　イ

十五.
２　１
イ　ウ

十六.
２　１
ア　ア

十七.
２　１
ア　エ

十八.
２　１
オ　イ

十九.
２　１
イ　エ

二十.

２　１　二十一.
ウ　ウ

２　１
ア　ウ

２　１　二十二.
オ　オ

２　１　二十三.
ウ　イ